（別紙4-1）（ユニット1）

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0175700350		
法人名	株式会社　一条		
事業所名	グループホームほろむい二号館		
所在地	岩見沢市幌向北2条1丁目611－109		
自己評価作成日	平成24年8月3日	評価結果市町村受理日	平成24年11月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0175700350-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	有限会社　ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北１条西7丁目1番あおいビル７階
訪問調査日	平成　24年　10月　29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

施設内の生活もご家族のご協力と職員の良好なチームケアを基盤に自分らしく安全・安全な生活を提供している。
また、外出行事にも率先的に出掛け、月１回の温泉ツアーや季節に合わせた外出ツアー・町内会に加入し、地域での花壇の手入れやゴミ拾い・催し物に積極的に参加し、ご入居者の思い出に残る生活を提供してりる。
防火体制万全で全館オール電化であり、スプリンクラー・緊急通報装置・火災報知機等の設置、カーテン・絨毯等の防炎対策もしている。また、年２回の全体避難訓練も消防職員立会いのもと、日中・夜間を想定して行い、各ユニットにて自主避難訓練も行なっている。
常勤の看護師を配置して、介護職員と連携して日常的な体調管理や緊急の対応も協力医療機関との連携を取り対応している。
ご利用者のご家族が宿泊できる部屋を完備し状態に応じて提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

ほろむい２号館の道路を隔てた向いにはグループホーム、デイサービス、また、訪問介護センター、介護相談センターなどが住宅街の一角を占めており、まさに高齢福祉のゾーン「ふれあいの里」が築かれています。運営法人は職員と共に利用者個々のサービスのあり方を検討し検証を重ねるなど、その真摯な対応については、利用者をはじめ家族の厚い信頼を得ています。利用者の転倒など事故が発生した場合でも、事故報告書の再発防止策の検討をより深め、ヒヤリハットの範疇を大きく広げて「どこかに原因が潜んではいないか」との追求を怠らない姿勢は特筆に値します。また、外部評価での結果を十分な理解で受け止め、時間を待たず改善に努める運営者の熱意は称賛に値し、オピニオンリーダーとしてこれからも活躍されるよう期待されます。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的な全体会議・ユニット会議において、施設理念を中心に考え、新しい職員の方にもオリエンテーションの中で理念について理解できる様、随時説明している。	運営理念は、利用者が自分らしく安心して暮らせるようお手伝いをさせていただくことを掲げていますが、職員はこれら「お手伝い」の意味を理解しつつ、日々のケアに生かされるよう共有と実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、定期的な草刈や花壇の手入れに率先して参加し、地域の方との交流をはかっている。また、避難訓練時のおいての参加をして頂いている。	職員は、地域に密着したサービスの意義を理解しながら、地域との関わりを深める努力をしています。町内会の諸事業には率先して参加し、利用者の暮らしに反映するよう努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症についての理解や定期的に町内会向けにお便りを発行する事により、ホームでの活動の理解を得ている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域に根ざしたグループホームのあり方や災害時などの協力体制等を市関係者や町内会の役員の方にもご出席頂き、出された意見を実践しています。	ほぼ２ヵ月毎に開催される運営推進会議では、町内会の役員、民生委員、包括支援センター職員及び家族などがホームの運営報告などに基づき、活発な意見交換が行われています。昨年の改善課題であった多くの家族の出席要請や議事録の送付など著しい改善が見られます。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録やグループホームのお便りを届けたりと、こまめに顔を出し、その都度、運営上の疑問点や問題点などを話をさせていただき、市との繋がりに努めている。	町内会向けに作成した「おたより」を市の担当者に届け、運営推進会議の経過を報告するなどホーム運営に関心を持っていただくように努めています。こうしたことを積み重ねながら適切な指導を得るなど連携を図るよう取り組んでいます。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム長会議・ユニット会議で随時身体拘束を行わないケアを話し合い、全職員が身体拘束しないケアをマニュアルを基にし話合い、理解したうえで実行している。	身体拘束のないケアのマニュアルをもとに、職員の会議で繰り返し協議しながらサービスに反映するよう努めています。また、家族の目線を意識しながら対応の検証を行いつつ共有を図っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修等に参加し、ホーム長会議・ユニット会議等で随時話し合いをしている。、常日頃から虐待行為につながらないよう、口答ではありますが周知している。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在発生はしていませんが、介護支援専門員を中心に内部研修の機会をホーム長会議やユニット会議に設け、職員全員に理解が出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を掛け解りやすく説明し、疑問点を話し合いご利用者やご家族に理解・納得して頂き、署名・捺印を頂いている。その後の疑問点について随時対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段より、利用者や家族等と職員が気兼ねなく話せ、直接、意見・不満・苦情を伝えられる様な関係作りを心掛けている。また、伝えられた内容を検討・改善策を話し合い反映させている。	家族の訪問頻度は比較的高く、家族との話し合いの機会増に繋がっています。利用料の納入などを出来るだけ窓口にするなど利用者と家族の関係維持にも配慮が見られます。家族からは様々な意見も出されており、ホームとしても改善に向けた検討が行われるなどサービスの向上を図っています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段より、職員とのコミュニケーションをとり気軽に話せる環境を作っています。 ホーム長会議やユニット会議にて意見を頂き、現場で反映させている。	運営者はケアサービスの現場に溶け込み、職員と一緒に利用者への対応を行いながら運営に関する職員の意見を気軽に聞く機会を多くしています。小さな気付きもユニット会議で取り上げながら運営者と職員が一体となってサービスの向上に邁進する姿が垣間見えます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者が管理者や職員個々のシフト希望を基に作成を行っている。また、随時より働きやすい環境作りを話し合い改善できる様心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修・講習の情報があれば、随時、受講しています。 そこで受講した内容を各ユニットにて報告会を兼ねてユニット会議内で研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等に職員が参加する事により、外部事業者との情報交換や交流を行なっている。 営業を兼ねて定期的に他事業所に伺い交流をしている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員はご利用者と信頼関係が築けるよう、居室を訪室し、ゆっくりと話せる機会と話しやすい雰囲気を作り会話をする時間を多くとっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話などで日々の状況を報告し、会話しやすい状況作りに努め、ご家族の不安や困っている事を聞き答えられる様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族と面談した情報をもとに、ユニット会議にて常にその人にとってどの様な支援が必要かを考え支援にあたっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩としての尊敬の気持ちを忘れず、個々の能力を把握し、活かした生活を送って頂けるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員とご家族で情報を共有し協力して行く事により、ご家族と一緒に考え適切な支援を提供している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・縁戚者だけでなく、ご本人の知人等の面会は自由に行っている。馴染みの場所への訪問も実施できる体制を整えている。	家族は勿論、古くからの知人が訪問の際には、暖かく迎えて利用者との絆を大切にした支援に努めています。病院などの送迎では前に住まわれていた住宅近辺も回り道をして豊かな話題への支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活で、その人らしい暮らしをしていく為に、ご利用者・職員が会話を大切にし、お互いを支えあえるよう支援に努める。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価 実施状況	外部評価 実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族と街で会った時など、近況をお話等をしたりして、これまでの関係を大切にしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思い・役割等を会話の中に取り入れながら、希望･要求などを出来る限り沿えるよう努める。	昔の思い出話や生活歴を把握しながら、利用者の思いや意向を把握しサービスに繋げています。家族からの情報、また、本人本位の検討を重ねながら支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者と会話を通し趣味･嗜好を聞き出し、サービス利用の経過などに反映する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に安全･安楽･見守りを通し、どんな小さな変化にも対応出来るよう記録に残し、医療関係･栄養士・スタッフ間での情報の共有をはかり、日常のケアに活かす。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画を作成する際は、ご利用者・ご家族の意見・希望などを聞き、出来る限りそれに添える計画を作り、ケアに反映できるよう努めている。	ケアプランの中には家族からの情報をいかにホームの暮らしに反映するかの課題が明確に表現されており、見やすく、職員も対応が容易なプランが作成されています。利用者を担当する職員の日々のモニタリングも反映されており、タイムリーな記述も眼を見張ります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月ユニット内でミーティングを開催し、日々の生活･健康面など報告し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況に応じ、通院や送迎など必要な支援に応じられるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の清掃や花壇の花植えなどの行事に参加し、地域との交流を深めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人が入所前より通われていたかかりつけ医との関係を継続し受診も対応している。また提携している医療機関の訪問診療も定期的に行なっている。	従来からのかかりつけ医への受診は、家族とも相談しながら主にホーム職員による支援が継続されており、受診内容は家族に知らせると共に、日常のケアやプランに反映しています。また、協力医療機関の医師による定期健診も家族から喜ばれています。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体の変化、表情などの変化を日々観察し、少しの変化も看護師へ報告し指示を仰ぎ支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は出来るだけスタッフが顔出しし、安心して治療に専念出来るよう心掛けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居者の状態や経過を考慮しながら、ご家族・医師と話し合い、方針を決めている。	運営者及び職員は、利用者の高齢に伴う重度化や終末期に向けた支援を強く感じており、現在もターミナルケアを前提とした支援が一部に行われています。ただし、医療連携に関わる指針及び家族の同意に至る一連の作業で改善の余地があります。	常勤看護師の設置や重度化や終末期への対応指針はありますが、事前に家族との協議及び同意が必要と思慮します。ホームとして出来ること、出来ないことを入居時に家族に説明しながら同意を得る取り組みが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制や応急処置等、ユニット会議など定期的に確認しあっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署のご協力を得て避難訓練を実施している。また、ユニットでの自主訓練も行なっている。	夜間想定の避難訓練を消防署の協力を得て年２回実施しています。また、避難訓練で得た問題点の解決のための自主訓練も実施しています。地域の方々の協力要請を行い少しずつ理解を頂いていますが、支援の内容などマニュアルに未整備な箇所が見られます。	災害での非常時に際して、住民の協力は不可欠であり、支援をいただくポジション、役割などを明記したマニュアル作りが求められます。また、災害に対応する備蓄もホーム及び地域としての対応と取り組みが期待されます。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が個々の入居者様の人格把握をし、プライバシーを損ねない対応をしている。	職員は、日々のサービス支援の中で、利用者一人ひとりの人格を尊重しつつ、優しい言葉かけにより笑顔を引き出しています。昼食時での支援も和やかな中に人格の尊重やプライバシーへの配慮が見られました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が入居者様の思いや希望を聞き、相談しながら出来だけ自己決定出来るように声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員全員が入居者の目線に立って、出来る限りご入居者のペースで時間にゆとりを持って過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月１回の訪問理美容を行なっている。また、ご希望の方には行きつけの美容室への送迎を行なっている。 毛染めをしている方には介助している。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食堂だけではなく場所を変え、外食やお庭での食事等を行なっている。食事の準備や後片付け等、ご入居者個々の状態に合わせて職員と一緒に行なっている。	入居の際には個々の利用者の好みの食べ物などを聞き出しながら、食事に反映するようにしています。献立は法人の栄養士が作り調理は各ユニットの職員が担当しています。味付けもよく利用者の全てが残さずに食べ終わるなど家庭的な味付けが好評です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとり一人の食事量や水分量を把握し、水分･食事不足時は好みの物を聞き提供し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ひとり一人の状態にあわせて、見守り・一部介助・全介助にて口腔ケアを行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄を行なっていただく為、ご入居者の排泄パターンや表情・行動パターンを把握し声掛け誘導している。	これまで昼間でもオムツ使用をしていた利用者も、出来る限りトイレでの排泄自立支援が功を奏して、オムツ使用も激減し夜間のみ一部の使用となっています。職員は排泄パターンを把握しながらそれとない声かけや誘導によりトイレでの排泄自立の支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常より散歩や体操に参加して頂き運動するよう働きかけている。普段から排便状態や水分摂取量の把握もしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週２回を基本にしていますが、入浴希望がある場合は都度対応しています。 また、入浴中は楽しまれるよう会話したり歌を一緒に唄ったりしている。	利用者の日々の体調に配慮しながら週２回の入浴を楽しまれています。職員は入浴時の利用者との会話を大切にして、思いや意向の把握に役立てています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとり一人の生活のリズムや状況に応じ、休んで頂いたり、ゆったりとして時間を過ごされる様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は２名で確認し、飲み込みを確認するまで見守りをしている。 服薬後は変化がないか状態観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日中カラオケやおやつ作りなどをして楽しんでいる。 日々の生活の中で食事の準備や掃除、洗濯物たたみ等、職員と一緒に手伝って頂きながら、目的を持つ様にしている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価 実施状況	外部評価 実施状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月１回は外出行事を設け、天候の良い時には声掛けをし散歩へ出掛ける様にしている。	ホーム内の閉じこもりを避けるため、天候の良い日は努めて屋外での散歩、庭先でのお茶会などをしています。また、毎月１回の外出行事を企画してバラ園、水族館、巡業中の力士の稽古見物、温泉ツアーなどに出かけ一日を楽しんでいただくよう支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはご家族の了承を得て施設で管理しております。外出行事の際は預かり金より幾らかのお小遣いを所持して使っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	間違い電話予防の為、スタッフが代わりに電話の取り次ぎ行なっている。 手紙も要望があれば、投稿など対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落着いて過ごせる様に温度管理や照明・窓のカーテンをこまめに調整している。 また、壁には皆さんで工作した物や、スナップ写真を飾っている。	ホームの中央にある吹き抜けには、庭園があり、冬期間を除いて季節の花々が間近に眺められる癒しのゾーンとなっています。居間、食堂、また廊下などの共有空間では、温度と湿度管理が行われて健康維持に配慮が行き届いています。明るい居間の壁には利用者が作った貼り絵、行事の写真などが飾られゆったりとした空気の流れを感じさせます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファーにて新聞やテレビ観賞・カラオケ等、他の入居者の方との会話など楽しんで過ごしている。中庭には一人になれる空間を準備している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れた家具を体調や希望にあわせて、ご家族と相談して配置している。	温度管理の行き届いた居室には、色々な思い出の品々が持ち込まれ落ち着いた雰囲気が漂います。絵画や書架に並べられた本、そしてご家族の作品の書などが飾られた居室は利用者の安心と寛ぎの場となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室等に目立つように表示板を設置し、場所を覚えて頂いています。		